

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2012.4 April vol.21

里山の自然が地域の生活を支える

民主県民クラブでは、3月26日に雲南市及び奥出雲町地域の建設環境部会調査を行いました。

わたらの里山再生特区

最初に雲南市役所で松江・尾道線の整備状況と吉田掛谷インター周辺の整備計画やわたらの里山再生特区の取り組み、小原ダムの整備状況と課題について、それぞれ担当者から話を聞きました。

3月24日に尾道松江線の三刀屋木次インター（IC）から吉田掛谷IC間が供用開始となり、24年度末には、県境を越え中国縦貫道までつながり、広島との時間距離はぐっと縮まってきました。この横断道の供用開始を地域の活性化につなげようと、雲南市では道の駅の整備を進めています。高速道によって地域が通過地になってしまわない取り組みがこれから必要です。

また、わたらの里山再生特区として指定を受け、里山のエネルギー利用の推進、里山の食糧供給機能の復活、里山の小規模多機能自治への挑戦の3つの課題に市民総がかりで取り組み始めています。

3月3日午後3時に、ダム湖水位を洪水時の最高水位まで上昇する試験湛水（たんす）



尾原ダム管理支所で担当者から説明を受ける



道の駅「おろちの里」のレストラン「ふるさと亭」



三沢小水力発電所

いしが完了した斐伊川水系尾原ダムの周辺地域の整備も進んでいます。尾原ダム周辺地域づくり推進連絡協議会を立ち上げ、斐伊川流域の上下流域の連携強化と水源地域の取り組みの情報発信によって一体的な地域づくりに取り組んでいます。

市役所での説明を受けた後、開通したばかりの三刀屋IC吉田IC間を走りました。当日は寒い日で雪もちらつき、最初のトンネルを抜けると辺りは真っ白、雪深い地に来たという印象です。

そこから、ダム湖さくらおろち湖へ行き、尾原ダム管理支所でダムの概要を聞き、自転車競技施設やポット競技施設などの周辺設備を見て回

り、道の駅「おろちの里」で昼食をとりました。

このおろちの里のレストラン「ふるさと亭」は、昨年紹介した農事組合法人「槻之屋ヒール」の皆さんが地元産の食材を使って食事を提供しています。今回もいろいろな種類の献立が並び、おなかいっぱいいただきました。

様々な取り組みに地域の人がつながっています。島根の元気な源として、これからも中山間地域の皆さんには頑張っていたきたいと思えますし、私たちもこうした取り組みを応援していきます。

住民で運営する小水力発電

午後からは、奥出雲町の三沢

小水力発電所の調査を行いました。昨年の福島第一原発事故以来、新たなエネルギーとして、太陽光や風力、水力、地熱など自然再生エネルギーによる発電が注目を集めています。山地の多い島根県では、昔から小水力発電所が各地にあり、今また、多くの皆さんが視察に訪れています。

川の上流で水を引き込み、落差を使っての発電は、設備さえ整えば、後は水が落下するエネルギーを利用してタービンを回せばよく、極めて環境に優しい発電です。三沢小水力発電所は昭和27年に地域の産業振興と無点灯家屋をなくす目的で事業研究が開始され、昭和32年3月に工事が完了し、同年4月から90kw（現在の一般家庭の電気使用量でいうと約100戸分）の発電が始まりました。

発電所の経営主体はJA雲南ですが、運営は地元自治会の代表者などで組織する三沢小水力発電運営委員会に委託されており、運営委員会では請負料の一部を地元地域の振興に役立てています。

奥出雲町には同じような小水力発電所がほかにもあり、町が経営主体となっている仁多



水力発電機



奥出雲町健康食品産業生産者協議会MOHGの皆さんと意見交換

発電所にも調査に行きました。ここは、出力が185kwと一回り大きい発電所です。

農業へ異業種から参入

このあと、奥出雲町横田庁舎へ行き、農業への異業種参入をしている地元建設業関連3社、(株)佐藤工務所、(有)植田工務店、(有)中村工務所がつくる奥出雲町健康食品産業生産者協議会(MOHG モーグ)の皆さんからお話を聞きました。町にある国営横田開発農地を利用して、農業参入をしている3社が、野菜など農産物を加工販売していくうえで、個々でやるよりも一緒にすることで商品数が多くなり販売力が強化されると、共同して取り組んでいます。

これまでも建設業の異業種参入については調査をしてきましたが、これも他と同様、本業で参入部分の赤字を補っているという状況です。しかし、公共事業が減って仕事が少なくなってきた社員の仕事を考える点から取り組んだ農業参入です。農産物の生産だけではなく加工販売へといわゆる6次

産業化に取り組み、その苦勞は大変なものだと感じました。皆さんと意見交換の後、中村工務所が手掛けるエゴマの製油について、機械を見せてもらいながら説明を聞きました。自社栽培のエゴマの品質を高くしていくとともに、質のいい製品の量を確保するため、周辺農家にも栽培してもらい、品質を保つための指導も行いながら商品化してまいります。そこに売れる商品づくりの努力がうかがえます。

建設業は単に公共事業の受け手としてではなく、除雪など防災支援の受け手でもあり、いかに重機や人材を確保してもらおうか考えながらの支援も必要となってきます。自助努力はもちろんですが、それだけでは、会社を維持していくことは現状では難しくなっています。

今回は、雲南奥出雲地域の取り組みについて、関係者の皆さんから貴重なご意見を頂きました。今後の民主県民クラブの政策調査活動に活かしていきたいと思えます。

とまちゃん通信

発行者 角 智子 〒690-0064 島根県松江市天神町132
TEL.(0852) 28-8880 FAX.(0852) 28-8881
E-mail sumi@tomachan.net
U R L http://www.tomachan.net/

2月定例会一般質問

改正NPO寄付 税制スタート

新たなNPO寄付税制がスタートし、国からNPO法人の認定事務等が地方に移管され、これに伴う条例改正がありました。

寄付に対する所得税、県民税などを優遇することにより、NPO法人の活動資金集めを支援していくことと、さらに新しい公共の支援が進められています。

今後つくられる各自治体で指定したNPO法人への寄付に係る地方税を優遇する条例個別指定制度について聞く。

環境生活部長 条例による個別指定制度はNPO法人への寄付の促進を税制面から支援すると同時に、各自治体の判断でNPO法人への寄付に係る住民税の優遇措置を決定するもの。今回の制度改正は、この条例個別指定制度のほか認定NPO法人の要件の緩和や仮認定制度の導入があり、これらの制度との関連性や市町村との関係など、整理すべき論点は多い。

県では市町村と共同での制度のあり方を考える研究会を取りまとめ、3月中旬に論点整理をとりまとめ、その案をもとに県民いきいき活動促進委員会を始め各方面での議論や意見を参考に、県としての対応を決定

無縁社会の状況がある中で、新たな有縁社会を築いていく

うえで、NPO法人やボランティア等の県民の活躍が今後、ますます期待されるが、その支援の取り組みを聞く。

環境生活部長 マネジメントや会計基準、組織運営に関する講座の開催、会計専門指導員による個別の指導、各団体の情報開示に関する講座の開催、寄附などの活動資金の調達に関する研修の実施、各団体のネットワークづくりへの支援などを行うっており、引き続き積極的な取り組みをしていきたい。

新しい公共の担い手の育成にもつながると考えられる事業にシマネスくくにびぎ学園事業がありますが、東西2つの学園がある地域を中心に受講生が集まり、周辺地域の人は少なくなっています。高齢者の学びの意欲を支えるのであれば、より身近なところでの学習機会をつくるのが必要です。

また、その知識や技能を生かして地域貢献したいと希望する人に対して、地域の活動を紹介し、つながりなどを工夫していくことも必要です。

くにびぎ学園の卒業生が今以上に地域の中で学び、地域の中の活動に参加を促す事業として見直す必要があるが、いかがお考えか。

健康福祉部長 卒業予定者の中には、卒業後の地域活動に向けたネットワークづくりへの取り組みや、また既にボランティア組織を結成された人もいる

が、より多くの卒業生にくにびぎ学園で学んだことを生かし、地域の中で学ぶことで地域活動の担い手として活躍していただきたいと考えている。

このため、カリキュラムの見直しや卒業生の人材バンクなどネットワーク組織の設置、卒業生の地域活動状況や学習の場などの情報発信など、県社会福祉協議会や関係者と一体となって、地域社会の発展に寄与する人材養成の場となるよう取り組んでいく。

子どもの育ちを支えるネットワーク

心の問題を抱え、不登校になる子どもたちが依然ある中で、その対応が求められています。

健康福祉部長 近年発達障がいや情緒障がいなどの子どもの心の健康に関する課題に対応するため、医療面での体制整備を行い、できるだけ早い段階から個別の療育支援につなげることが必要となってきた。

このため、県立心の医療センターに心理職など専門職員の配置を充実し、心理検査の実施や各圏域間での連携、情報交換などを行い、身近な地域で子ども

福島の子どもたちに野菜を

2月19日、ヘアテの贈り物を届ける会で福島の子どもたちに安全な食品を食べてもらおうと、自分たちで作った野菜などを持ち寄り送りました。我が家も義母が作った白菜や大根、小松菜をもって出ました。

育ち盛りの子どもたちが十分な栄養が摂取できるように安全な生鮮食品の流通が進むよう願っています。

向こう三軒両隣の絆

3月17日に松江歴史館で、後援会の研修会を行いました。学芸員の松原祥子さんから、江戸時代中期の松江の町人、新屋太助さんの大保恵日記から垣間見える住民の近所づきあいをお話していただきました。向こう三軒両隣、まさにそうしたなかでのお付き合いが如実に日記に現れ、江戸時代のいわゆる絆の片鱗を見ることができました。

そうした絆は近代以降、時代とともに変化してきましたが、最近ではそうした絆がなくなり、人との係わり合いが薄れ、孤独死や孤立死など、無縁社会と呼ばれる状況が現れてきています。

今各地で始まっている、地域の活動、市民活動やNPO活動が、地域の中の新たな絆を深めていく働きをしています。こうした活動やその担い手への支援が必要で。

お知らせ

次回定例会は、6月13日から7月6日までの予定です。お時間のある方は、傍聴にお出かけください。

問合せ先 TEL 28-8880

卒業生の知識・技能活用 くにびぎ学園 人材バンク設置へ

県社会福祉協議会 11年3月の卒業生は、卒業生バンクとして、県内各自治体やNPO法人、企業等に活用される。卒業生バンクは、卒業生の知識・技能を活用し、地域社会に貢献することを目的とする。卒業生バンクの設置は、卒業生の就業支援、地域社会の活性化、卒業生の社会貢献を促進する。卒業生バンクの設置は、卒業生の就業支援、地域社会の活性化、卒業生の社会貢献を促進する。卒業生バンクの設置は、卒業生の就業支援、地域社会の活性化、卒業生の社会貢献を促進する。

シマネスくくにびぎ学園事業

卒業生バンクは、卒業生の知識・技能を活用し、地域社会に貢献することを目的とする。卒業生バンクの設置は、卒業生の就業支援、地域社会の活性化、卒業生の社会貢献を促進する。卒業生バンクの設置は、卒業生の就業支援、地域社会の活性化、卒業生の社会貢献を促進する。卒業生バンクの設置は、卒業生の就業支援、地域社会の活性化、卒業生の社会貢献を促進する。

子どもを育てるネットワーク

心の問題を抱え、不登校になる子どもたちが依然ある中で、その対応が求められています。健康福祉部長 近年発達障がいや情緒障がいなどの子どもの心の健康に関する課題に対応するため、医療面での体制整備を行い、できるだけ早い段階から個別の療育支援につなげることが必要となってきた。

市町村では支援計画に基づいた幼児期から青年期まで一貫した支援を行っていくこと

健康福祉部長 近年発達障がいや情緒障がいなどの子どもの心の健康に関する課題に対応するため、医療面での体制整備を行い、できるだけ早い段階から個別の療育支援につなげることが必要となってきた。

震災がれきの広域処理

民主党島根県連では、3月13日に、溝口知事に震災がれきの広域処理受け入れについて各市町村に働きかけの場を設けるよう、小室県連代表、和田代表代行とともに要請しました。知事からは「安心してやってもらう必要がある、国にも説明してもらい、県内の状況とどういった体制、準備



みんなで野菜を持ち寄り梱包



知事に震災がれきの広域処理について要請



松原学芸員が太助さんの日記について講演